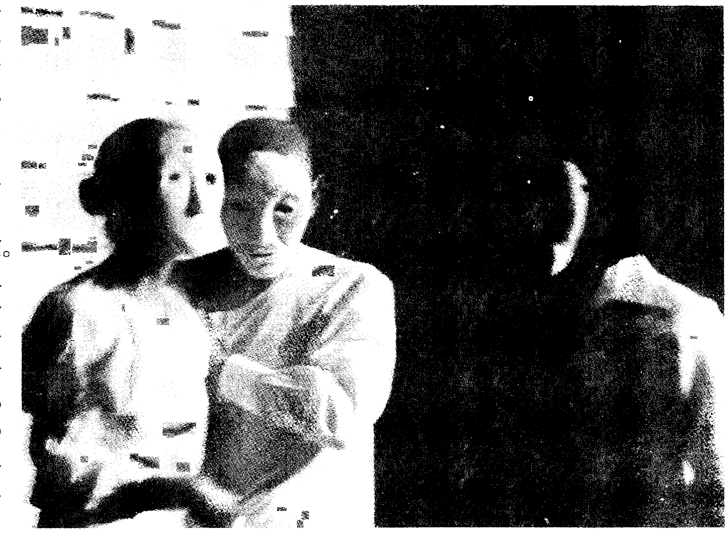
CUT ㊴ IN CUT IN CUT IN CUT
表現を発見する小劇場の新聞
experimental theater news

# 清廉に研ぎ澄まされる、仮面劇の言葉

**5月8日　PIT　北／地域　『Watashi wa Inko』**
**子殺し　親殺し　仮面劇　1992浦和高校教諭息子刺殺事件より**

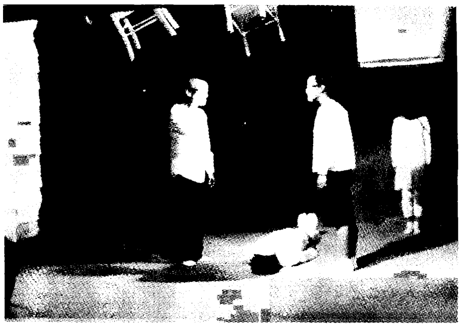
**REVIEW**

王子に＜バビロンの流れのほとりにて＞という劇場を運営するオフィス、東京バビロンが、王子駅前のビルの地下に＜PIT　北／区域＞という二つめの劇場をオープンさせた。そのこけら落とし公演。この劇場は、客席が舞台の2辺に面して二つに別れ、満席でも80ほどという小さな空間だが、座ってみると、芝居がとても近く、また、舞台の天井がかなり高い。舞台と客席が固定された"くつ箱型"の空間に慣れきってしまうと、照明や装置はしばしば貧困になる。かえって、ここのようなクセのある空間の方が作り手への刺激になるものだ。今回の「Watashi wa Inko」でも、包帯でグルグル巻きにした大型の冷蔵庫が高い天井から音もなくゆっくりとせり落ちて来たり、すぐ目の前の壁に落ちるサスのシルエットがはっとするほど美しいかったりと、独特の創意工夫が楽しかった。



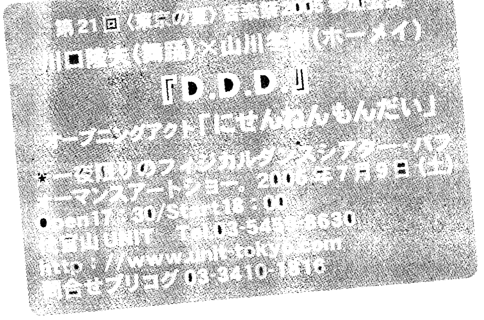
名門高校教諭の父親が家庭内暴力の息子を包丁で刺し殺す。3年前に実際に起きたこの悲痛な出来事を、5名の俳優が、仮面をつけ、父、母、息子、息子の恋人などに扮して演じていく対話劇である。例えば、殺された息子の恋人らしき女と、殺した両親の冷え冷えとするような対話がある。この女が「自分たちも被害者なのだ」という両親の心に潜む欺瞞を責め、両親は無意味な自己弁護を繰り返す。あるいは事件の直前、これから息子を殺す父と母の、ふと気味悪い生暖かさを漂わせながら「殺しちゃおうか」とつぶやく、その共犯関係の対話。さらには、すでに殺された息子が両親を難詰し、息子がいつのまにか祖父に入れ代わり、両親（祖父から見れば息子）の行いをなじる。

抜き差しならぬ人間関係と、言葉の、どちらが先に生まれているのか。この対話劇における人間関係と言葉が、仮借なく鋭くこちらに迫って来た。抑制の効いた演技のゆえか、仮面によって俳優の個性がひとたび背後に退くという効果なのか。罪人とそれをとがめる者、願う者と拒絶する者、傷つけるものと逃げる者。そういう関係が、澄み渡るように明晰で、言わば、ナマの人間と人間の関係を超えたものとしてそこにある。個人の小さな器を超えた、重く深いものがその場を支配している、と言えば良いか。これに較べると、あまたの対話劇と称する芝居の関係性のなんと緩く、いい加減なことか（それが凡庸ということか）。ここで最大の力は、やはり、事件の現実的時間を解体構築する構想力と研ぎ澄まされた台詞、すなわち台本の力に相違ないと思われた。



「事件をもう一度、生きてみることによって、救済に到達できないだろうか」。そういう試みだったと、作・演出の岡村洋次郎は語っていた。清廉とも言える言葉を紡ぎ、仮面劇の豊かな可能性を舞台は雄弁に告げていた。劇団阿彌の次作にも注目したい。

（井上二郎）




**IN TOWN**　**出会いの風**

**●5月8日、10日**　黒テントが、28年間住み慣れた練馬の作業場を離れ、この4月、新宿区岩戸町の大久保通りに面したビルにシアターイワトという拠点劇場をオープンした。その新しい劇場に、韓国から2劇団が来日。原州文幕の劇団ノットルは、台詞らしい台詞は使わず、マイム風な身体表現と叫び声と歌でメッセージを伝える前衛的旅芸人集団という趣き。今回の「帰還」はブレヒトの「死んだ兵士の伝説」を脚色したもの。闘いで死んだ兵士までが、戦争遂行者たちに利用され翼賛政治の道具にされてしまう。それを許すな。メッセージが直球のように飛んで来る。「半人（パンチョギ）伝」は、安山市文化芸術の殿堂という芸術団体が、オーディションで俳優を集めて作った民話風ミュージカルだ。体の半分が怪物のような風体の少年が、からかわれ、いじめられ---しかし、自分にとりついた鬼を追い出し、人間として誕生しなおすという成長譚。不幸の原因は、奇形な者自身の心に巣くう鬼にある。その眼差しの深さに心をうたれる思いだ。韓国の伝統的なマダン劇（広場の劇）の手法にならって観客との対話を重視、賑やかに客席を巻き込みながら明快なストーリーテリングを展開。演技も歌も洗練された完成度の高い作品だ。韓国の地方都市から来た2集団は、このように、メッセージも表現方法も旗色鮮明で、極めて元気が良かった。

(CUT IN)

劇団ノットル「帰還（Return）」5月7日／8日　安山市文化芸術の殿堂プロデュース「半人伝」5月10日／11日　会場／シアターイワト

『帰還』　撮影／青木　司

『パンチョギ伝』　撮影／青木司

**●5月某日**　名古屋から電車で30分ほどの名鉄布袋駅から歩いて5分ほどの、＋（プラス）ギャラリーへ。「"Meeting"　－会合－」と名づけられた展覧会には、宇野君平、小林耕平、小林大地、ジン・ソック　＋　山崎美季、須田真弘、所優子、松藤春花、山田亘8組の作家が参加している。二階建ての古い日本家屋を改装したスペース。宇野君平の作品は、カラフルな弾丸が連なったインスタレーション。恐怖よりも色のかわいさに魅かれて顔を近づけてみると、実はクレヨンで弾の形を作り、並べられている。床には緑の木々が点在した町並みを再現するインスタレーション、これも緑のクレヨンをたくさん垂直に並べていたもので、飛行機で空を飛んだときにあるような、空から森を眺めているような気分になった。山田亘は、花の上に横たわる人を撮った写真作品を発表した。死体のように目を閉じたその人々は、赤ちゃんやほほえむ表情を浮かべる人など、実は本物の実は本物の死体ではないことが分かる。だが、「死」という人間には必ず巡ってくるという （次ページに続く）

Vol.39 2005年6月号　発行／タイニイアリス　ディ・プラッツ　アート・ネットワーク・ジャパン　編集部／新宿区富久町4-13　03-5366-8646　井上二郎　jiro-i@za2.so-net.ne.jp　DTP／ORANGE. KOUSUKEOGASAWARA

REVIEW

# 今日のアフリカ、ヨーロッパ、アメリカという絶望の3角形を如何に視覚化するか。

**イマージュオペラ　コントラ・アタック『油田』**
**4月26日（火）&27日（水）神楽坂die pratze**

「イマージュオペラ」とは主宰の脇川海里によると、「歌劇」の意味ではなく、「労働／行為／努力／作品」を意味するラテン語 opus の複数形 opera を含意したという。「像」image による作品、「像」に携わる労働、即ち、「像」に働きかける。「像」とは漢字で「形」である。大野一雄、笠井叡らに舞踊を学んだ脇川は、舞踊／身体運動を用いて「形」を象ろうとする。「油田」では、P・P・パゾリーニ等を「翻訳」した。この「形」＝「翻訳」とは何だろうか。

会場に入ると黒い衝立が六枚立てかけられてある。天井から喇叭が吊るされている。奥には赤や緑の空瓶が並んでいる。アフリカの子供達の声が流れる。モランディとアフリカが混合する。第一部。奴隷のようにパイプに足を絡めてうずくまっている脇川が、喇叭のマウスピースを握りしめ起きあがれないまま叫ぶ。正面の衝立の間に、二つの腹が現れる。股を広げて、野沢英代が出てくる。折り曲げられるように、立つ。鍛冶場を暗示する音がする。衝立の間から相良ゆみと吉川祐子が出てきて、衝立を上下運動させる。会場を流れるブルースは、綿畑での奴隷の強制労働を暗示する。一人が逃げ出す。二人は闘い合い、一体となり「我々だって友達になれるかも知れない」と呟く。二人は仰向けで台座の形になり、頭の両脇に釘を打ち付けた箱が添えられる。荘厳な間奏曲が入り、衝立は積み上げられて雛壇となる。そこに人形の生首が4つ置かれる。第二部。生首に対応して、4人が横並びに座る。顔で表情を創り、客席に背を向け、瓶を軸に腰を動かし、排泄物のように出て来たジェット風船が飛翔する。相良と野沢はパイプを用いて、バルテュスのポージングを引用する。MAYUMI がバタイユ「死者」を朗読し、終えるとしばし佇んだのち暴れ出す。衝立は、雛壇から屏風状に変化される。相良が、寝返りあるいは轢死を現す。第三部。アメリカンハットを被ったバトントワラーの行進、そしてチョコレートを自身に塗りたくる女。左奥から脇川が覗く。黒ブーツ、赤と黒の下着という奇矯な姿の脇川が屏風を乗り越えて現れる。パイプをステッキのように遊ばせ、棄てる。喇叭を手にして赤い闇、屏風の奥へと消えて行く。ジェット風船が飛び交い、終わる。

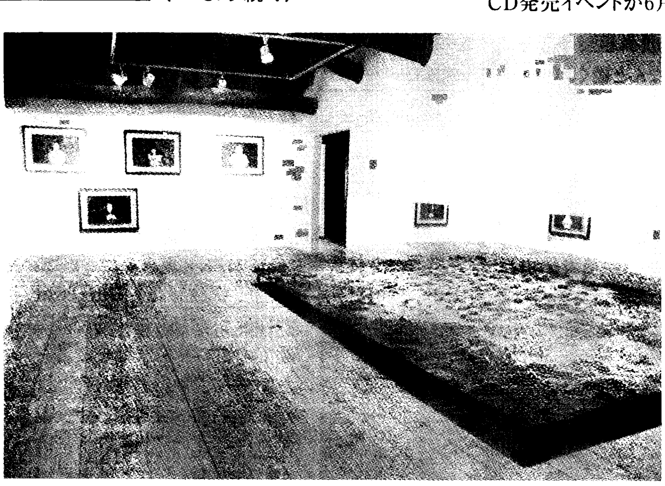
それぞれの「像」の切片を脇川は混合させる。シーケンス全体は、アフリカ‐ヨーロッパ‐アメリカの三角関係によって構成されている。マウスしか持っていなかった「アフリカ」から、喇叭を持った「アメリカ」へ。その「アメリカ」も、炉のなかへ消えて行く。

脇川は通常の言葉が持つコミュニケーションの不完全さに絶望し、より普遍的な言葉を求め、舞踊を始めた。その様な言葉＝「像」を体で「翻訳」するとは単なる単語の転換ではない。E・パウンドはラテン語／フランス語／中国語等を英語の詩に組み込む。すると「翻訳」という問題が出てくる。その際パウンドが提唱した方法が「ロゴポエイア」である。パウンドは LOGOPOEIA を「語と語の間の知性の舞踏」であるという。「ロゴポエイアは翻訳できない。部分的に忠実に翻訳することはできないが、ひとたび原作の精神状態を把握するならば、それの等価物を描き出すことはできる場合もあろう」言葉＝「像」の精神状態と等価の物を描き出す。イマージュオペラの面白さはこの「等価の世界の創造」にある。脇川は観客をイリュージョンによって幻惑し、思考を奪うことだけはしたくないと考えている。だから見る側は、自分が通常の言葉に支配されていることを前提に、可視化された言葉＝「像」の世界で遊べばいい。するとダンサーが何故「動くのか」という興味よりも、何故「生きているのか」というテーマに当たる。それは、見る側自身にも反射してくるはずだ。

（宮田徹也）

撮影／田中英世

IN TOWN （P1より続く）



山田（奥）と宇野（手前）

**●5月某日**　＋（プラス）ギャラリー。（前ページからの続き）テーマが、彼らの穏やかに見える表情に暗雲をもたらす。こんなふうに優しい顔で人生を終わらせることがこの現代で出来るのだろうか?他にも、絵画作品や映像作品が展示された本展。作品と"Meeting"することで、なつかしさ、楽しさ、不安など、あらゆる自分の感情とも"Meeting"することができた。（藤田千彩）
"Meeting"－会合－展　5月14日～6月12日

**●告知**　2003年、オーストリア・リンツでのアルスエレクトロニカのデジタルミュージック部門で Honorary Mention を受賞した YukoNexus 6の新譜が6月中旬発売される。このアルバムは、伝統的な民謡やジャズを元にした楽曲を、YukoNexus 6のアートワーク同様、音を切ったりつなげたりして再構成した作品を14曲収録されている。ゲストに足立智美、千野秀一らを迎え、単なるパフォーマンスというだけではなく、音楽や言葉、リズムに対して YukoNexus 6が問いかける意欲作だ。CD発売イベントが6月27日～7月3日、名古屋カノーヴァン（http://www.canolfan.com）（藤田千彩）

NEXUS 6

**●5月15日**　大塚 out-lounge にてアライ＝ヒロユキ『イセゴーリア』。批評家としても活動するアライによるこのパフォーマンスは、毎回、戦争、国家、法律といった問題が複雑にからみあうテーマを俎上にのせ、参加者が擬似的に議長や書記、市民などの役になることでその問題について討論し、直接民主主義の手続きにより、ひとつの結論を下すというもの。今回取り上げられたのは、第二次世界大戦中起きた在日朝鮮人の兵士による捕虜殺害事件と、その戦争裁判の記録。しかしこれは、アライによって巧みに作られた架空の裁判記録だ。参加者はカードによって役を割り振られ、この架空の裁判議事録を読み上げた後、加害者3人に戦争責任はあるか、戦勝国による不公平な裁判は有効か、加害者を裁くのに妥当な法律は存在するか、といった難しい問題についてそれぞれの考えを述べるよう要求される。裁判自体は架空だが考えるべき問題は非常に根深く、現実的だ。参加者は自分に突きつけられた質問の難しさに口ごもりながらも、何とか答えを見いだそうと言葉を重ねる。登場人物の写真がアニメのキャラクターや某有名韓国人スターの写真であったりという、あからさまな虚構性にもかかわらず、議論にはごっこ遊びではすまされない真剣な雰囲気が漂う。これは現実の問題を考えるための演劇的な装置だ。参加者による討議と投票によって3人に判決が下されると、パフォーマンスの終了が告げられた。6時間近くにおよんだ当日の記録はアライの web サイトに up される予定。（小笠原）
http://homepage3.nifty.com/isegoria/

イセゴーリア　撮影／坂内美和子

アジア各都市をネットワークで繋ぐ新宿の小劇場
**TINY ALICE** より最新ニュース

# ふたつの世界に引き裂かれる少女。その当て所もない叫びの行き着く場所は——。

REVIEW

**E.G.WORLD III 『みにくいフツウの子〜突然変異は未来の常識』**
**◎5/6(金)〜5/8(日) タイニイアリス**

熊の霊を神のもとに帰す儀式というイヨマンテ。その生贄に捧げられて咆える小熊役の志保(根元千可子)がもし「みにくいフツウの子」だったとしても、サブタイトルの「突然変異は、未来の常識」とは何のことだろう? ひょっとしたら金堂修一(作・演出・制作)の、初め創ろうと思った構想とできあがった舞台とはズレが生じたかも? と思った。が、そんなことはともかく、わざとアイヌのは避けアボリジニとインド音楽に拠ったのだという素晴らしい音楽(山本康一)とともに、薄暗がりの中にアイヌの民俗衣装に身を包んだ少女たちが蠢きだし生贄の周囲を踊り刃物を突き刺し二本の棒で首を挟み……いったい何が始まるか興味津々身を乗り出した幕開きの熊祭りと、その号泣のような咆哮が、アイヌとシャモ(内地人)の間に生まれたいわばアイノコ少女の、どこに向けていいか分からぬ怒りだったと解る最後の熊祭りと。この二つのシーンが非常に印象的だった。底辺を忘れぬ、やっぱり金堂修一だと思った。最初の熊祭りが終るとそこは北海道の文化振興会館。客席から皇族和子の宮がしとやかに立ち上がって礼を言い、館員が大はしゃぎで記念撮影するのもなるほど日本であった。

ストーリーらしいものはほとんどない。ただ小熊の少女と相手役を勤めるアイヌ女たちや館員、あるいは少女と母、少女と父の人間関係が次第にわかってくるというだけだ。母(出口恵子)は学問と出世のことしか考えないと夫を憎み、少女は父を愛し、死の床にあったその父は「アイ」コンとか「アイ」ロンとか、愛につながる言葉を呟きつづける……といった家族関係も、とくに少女が小熊であることとの必然はない。事実そうだったからそう書いたまでかも? ——終わって作者にそっと聞いてみたら、あの父親は『知里真志保の生涯』(藤本英夫著/草風館)にもある知里その人。アイヌ人で初めて東大に入り、のち北海道大学の教授としてアイヌ語アイヌ文化を講じた学者。家庭を顧みぬ、ずいぶん自分勝手な人だったらしいよともつけ加えてくれた。そうかなるほど。それで芝居もわかったし、首を挟まれた少女の腹の底から迸り出たような声が、どこに向かって放たれたのか解りにくかったわけも解ったように思った。父か母か日本にか、それとも客席にいる私たちにか自分自身にか、きっと少女にもわからなかったにちがいない。行方知れぬ怨恨であった。

一つ一つの言葉に軽重なし。ぜんぶ体の内部に直結させ渾身の力を籠めて発するE.G.WORLD独特の重い台詞廻しには、賛否もあろう。が、新人たちの声はびっくりするほどよくとおった。♪知床の岬にはまなすの咲くころ、思い出しておくれ〜♪丘にのぼれば、はるかクナシリに白夜は明ける」という歌はこれから、今までとは全くちがった意味で聞こえてくるにちがいない。

(2005.05.07)

## 何よりも肉体を! 自己批判覚書。

COMING

**自己批判ショー 結成十周年記念公演**
**『客少な続けて十周年』**
**◎6月9日〜12日 タイニイアリス**

茨城県古河を拠点に活動する自己批判ショーは、安っぽくも才能豊かなコメディ集団である。"古河のモンティパイソン"を標榜していたこともある。もし"日本のモンティパイソン"だったら、その身の程知らずを諌めるところだが、"古河の"という地域限定であればOK。"田舎のプレスリー"みたいなものだ。とはいえ彼らの在りようは、どちらかといえばパイソンよりドリフだろう。背の高いリーダーがいて、おデブちゃんもいる。カーテンコールではお決まりのエンディングテーマが毎回歌い踊られる。そして現時点で彼らは男性五人組。実はそのことが優れた安定性につながっているように思う。ジャニー喜多川の「平成のドリフにしたい」という意を受けて結成されたSMAPも、現在の繁栄の秘訣は五という人数にあるのではないか。そしてこの場合大事なのは、リーダーが自分ばかり前面に出るのではなく、メンバー個々の持ち味をうまくフィーチャーできる能力を持ち合わせていることだ。そんなことも含めて自己批判ショーは結成十周年を迎えた今が一番脂の乗った黄金期である。とりわけ肉体的にも一番脂の乗ってる山本治は最高! その脂の乗り具合がいかほどのものであるかは、ドリフや水戸黄門ばりのお約束として毎回必ず登場する山本治裸体披露シーンでとくとご堪能あれ。「何よりも肉体を!」(ウニタモミイチ)

➡劇団HP…http://www.zico-hihan.com/

芸術文化を支援、発信するNPO
**アートネットワーク・ジャパン** より
**MONTHLY LETTER Vol.18**

# にしすがも創造舎で「文化ボランティア講座」がスタート。

04年8月にオープンした「にしすがも創造舎」。稽古場施設としての運営は軌道にのり、若手カンパニーが使用している普通教室が、狭いながらも見事に稽古場に変身し、次々に作品が生まれている。いままで転々としながら稽古していた「劣悪」な環境から一転、廉価で長期間専有という中で創作されていく作品の仕上がりにおのずと期待も高まるが、一朝一夕にいいものが出来るわけもなく、「管理人」に徹し各カンパニーの成長と飛躍を気長にかつ静かに見守ろうと思う。

さて、ここは単に稽古場施設だけでなく、すでにさまざまな地域密着型のアートプログラムを展開しているが、今年度より「アートネットワーク・ジャパン(ANJ)」と「芸術家と子どもたち」の両アートNPOが豊島区や関連団体と「としま文化創造プロジェクト実行委員会」を組織し、文化庁の「文化芸術による創造まち」支援事業の助成をうけ新たなプログラムを開始した。

ANJでは「文化ボランティア育成講座」として二つの講座を開設する。ひとつは区内のさまざまな施設で読み聞かせができる人材を育てる実践講座「心に響くドラマリーディング」。もうひとつは「演劇ってどうやって出来上がっていくの?」。これは、稽古場見学に前後してレクチャーをくみ、できれば本番も観劇し、一般の方にも演劇を身近に感じてもらいつつ、07年9月に豊島区東池袋にオープン予定のキャパ300名の劇場で"文化ボランティア"として活躍する方々を育成する目的も持っている。まずは種まきというところだ。

今回の企画も含め今年度もにしすがも創造舎を拠点に演劇公演を含むさまざまなプロジェクトを展開して行く予定なのでぜひ見守っていただければと思う。そして少しでも舞台芸術に興味をもつ人々が多くなればと願う。

読み聞かせ実践講座の内容は以下の通り。すでにこの記事が掲載されている頃には締切となっているかもしれないが、次回は10月末〜12月にかけての8回を予定している。なお、受講者は豊島区内在住・在勤・在学の方となっている。(ANJ蓮池奈緒子)

**「心に響くドラマリーディング」**
05年6月11日(土)〜7月23日の毎週土曜日と
7月24日(日)/全8回
時間:午後1時〜4時
場所:にしすがも創造舎
講師:倉迫康史・山田宏平・三橋麻子
参加無料
応募方法:往復はがきに①イベント名②〒住所③氏名(ふりがな)④年齢⑤電話番号を記入の上6月3日必着で下記にお送りください。〒170-8422豊島区東池袋1-18-1豊島区文化デザイン課
お問い合わせ:豊島区文化デザイン課 03-3981-1270

舞台で活躍する演出家、俳優を講師に目的にあった作品選び、絵本・手紙・小説の読み方の違いなどを学びます。受講者の要望に添いながら8回のプログラムを組み立てていく予定です。

「ドラマリーディング」とは?
劇場などの催しでここ数年よく使われる言葉です。その方法はさまざまで、言葉どおり単に「戯曲を読む」ものから、簡単な演技をつけるもの、また演劇公演に近いものなどいろいろあります。戯曲の紹介や再発見、俳優の訓練など目的に応じさまざまな形態で行われています。今回は「演出家や俳優から学び、演劇公演のような感情豊かな読み聞かせ」という思いを込めて講座タイトルを「心に響くドラマリーディング」としました。

READING

## 05年10月〜06年3月までの稽古場利用団体を募集します。

■「にしすがも創造舎」稽古場公募情報
【公募受付】……2005年6月15日(水)〜7月20日(水)
【内覧会】………6月21日(火)15時/7月5日(火)15時/7月15日(金)19時
➡メールにて受付…sozosha-info@anj.or.jp
団体名・代表者名・希望日時・人数を送信のこと
【公募締切】……7月20日(水)消印有効(持参の場合は土日祝を除く11時〜18時)
【決定通知】……8月10日(水)
【使用開始】……10月1日(土)
【利用稽古場】…普通教室
【利用料】………1日2,500円/1週間15,000円/1ヶ月(4週間)60,000円
詳細➡http://sozosha.anj.or.jp/

# 舞台はさながらフリーマーケット

**空中バレエ『soleil』**
**6/16(木)&6/17(金)19:00**
**6/18(土)&6/19(日)14:00&19:00**
**6/20(月)19:00**
問=090-2451-7424　作・演出=坂享宣　出演=富田千尋　新井菜穂
古谷吉功　後藤凪(劇団若草)　須永祥之(アミューズ)他　@麻布die pratze

**新しい演劇を発信する神楽坂と麻布の小劇場**
**DIE PRATZE より最新ニュース**

●今回は2度目の麻布die pratzeですが、以前の公演のときと比べ趣向が異なったものですよね。

**富田**——今回は実際にハンドメイドのアーティストさんをお呼びして、舞台上に作品の展示をしてしまおうかと。で、気に入ったものがあったときにフリーマーケットのように気軽に手に入れることができればなおいいかなぁと思いました。

●なぜ、このような企画になったのですか。

**坂**——アーティストの方の作品は生み出された物ですよね。舞台も同じく作品を生むものですよね。今回のテーマは『生産』なんです。

「手作り」にはどれも暖かさがあります。人の為に何か作ろう、と思う行為には必ず愛情が伴うんですよね。プロであろうがアマであろうが。だから、暖かみや優しさがこもっているのが「手作り」のよさ。僕自身、家族がそういった手作りアーティストというのもあって、その現場を子供の頃から見てきました。僕はその感覚がすごく好きです。舞台もやはり手作り。CASTもSTAFFもすべて手作り。「手作り」の原点に立ち返る作品にしたいと思い「soleil」という作品と企画が思い浮かびました。

**古谷**——僕ももともと映画作ってたんですけど、僕も皆で物を作るのが好きなんですよ。

**坂**——こういった企画で、ハンドメイドの作品に興味のある人が舞台に、逆に舞台に興味を持つ人が作品に興味をもってもらえたらいいかなと。コラボレーションは僕も大好きです。演劇の枠を広げると思う。例えばダンスと演劇のコラボとかはよくあるけど、そのコラボと同じようにお互いがお互いに興味を持てたらいいよね。

あまり両者に結びつきは無いと思われているかもしれないけど、でも同じ物づくりというものである以上、共通する部分も多いはず。せっかくそういう機会があるのだから、是非やってみたいなと。参加して頂くアーティストをあえて年配の方々にお願いしたのも世代のコラボ。実は今回、子役も老人も登場します。色々なコラボレーションは演劇を広げていくと思うんですよ。

**染谷**——舞台美術は美術自体を一つの作品として展示するような感じとでもいいましょうか。やはりそれ相当の作品を置く舞台になりますので負けていられません!

**新井**——なんで、『ソレイユ』なんだろう?　ちなみにわたしの住んでたアパート『ソレイユ』だった。

**内藤**——あー、そういえば12th『空隙』のときには決まってたもんね。

**坂**——自分の中で、昔ほど晴天という日が無い、そこまでガツンと晴れ晴れした日が無いと感じていて。ニュースを見ていて、朝一発目でブルーになることが多くて。それが年々多くなってる気がして。いいニュースと悪いニュースの割合がおかしい。

**新井**——前回の『空隙』は鬱の人が主役の芝居をしてたから今回『ソレイユ』なのかもね!

●最後に観て来てくださるお客様に一言。

**富田**——ゆっくりくつろいで見に来ていただければ嬉しいです!!　お茶でも飲んで帰ろうかな〜なんて思っていただければ最高!!

**新井**——アーティストさんたちの手作りの作品、とても素敵なのでお気に入りを見つけてください。

**坂**——アーティストさんたちの作品に負けないような芝居にします!

**染谷**——「物より思い出」っていうキャッチコピーがありますよね。でも、今回は「物込み思い出」そんなものを見つけてもらえたらいいな。

**古谷**——アーティストさん達と僕らのコラボをお楽しみいただければ幸いです。

**内藤**——soleilへのご来店をお待ち申し上げます。

## JOIN IN THE PICNIC
### 期待の公演情報

◆神楽坂die pratze
**6/26(日)&**
**6/27(月)**
**らてんのひびき**
『響躰詩－鏡にひびく詩のからだ－』
問=03-3485-8061
☆音楽・美術・演出=J・A・シーザー　☆出演=響巳夏　☆照明=アイカワマサアキ　◎『鏡に躰を映しだし　狂った躰を偲ぶ詩　怯える躰にとどめを刺しましょ　鏡はずーっとみています』

◆麻布die pratze
**6/23(木)**
**〜6/26(日)**
**シャフト**
『夕焼けのカナタ*アカツキの手前』
問=090-6014-6677
◎駅の待ち合い室に集まった人々。何故そこにいなくてはいけないのか?　何が待っているのか?　シャフト伝奇芝居第5弾　音、映像、芝居のてんこもりです。

# *schedule for JUNE 2005*

## TINY ALICE / NPO ARC

新宿区新宿2-13-6 光亜ビルB1 tel&fax 03-3354-7307
http://www.tinyalice.net　tokyo@tinyalice.ne.jp

**6/2(木)〜6/5(日)■劇団StoicStick**
さようならストイックスティック店じまい公演「芝居をなめるな!!〜劇団ストックステップの演劇教室」　問=090−1822−0660　☆作・演出=浜田昭彦　☆出演=内田和宏　小玉慶晴　佐丸徹　外間勝　中川加奈子　中橋眞澄美　浜田昭彦　若林史子　渡邊衛　annie　岡本篤(劇団チョコレートケーキ)　KINOSHIN(UNITレンカノ)　木全隆浩　久米靖馬(クロカミショウネン18/UNITレンカノ)　小林真富果(UNITレンカノ)　町山みゆき(UNITレンカノ)　山下沙代　◎最後を飾る新作は演出家を失ったとある弱小劇団のその後を描いた一世一代のコメディ。

**6/9(木)〜6/12(日)■自己批判ショー**
結成十周年記念公演「客少な続けて十周年」　問=090−6154−9261　☆作・演出=栗原崇浩　☆出演=栗原崇浩　小菅節男　山本治　川辺健　大久保宏章　他ゲスト
◎1993年に栗原崇浩を中心に茨城県古河市で結成された『劇団スパゲッティ・シアター』が前身の息の長い劇団がアリス初登場。

**6/14(火)〜6/19(日)■机上風景**
「複雑な愛の記録」　問=03−5696−1770　☆作=高木登　☆演出=古川大輔　☆出演=川口華那穂　古川大輔　平山寛人　ほか　◎1999年に結成された机上風景はリアルな演技によるシリアスなエンタテインメントで強い支持を得ている。

**6/22(水)〜6/26(日)■東京惑ワズ**
「こころのひとたち」　問=03-3827-3070　☆作・演出=東孝之　☆出演=よこやまよしひろ　石川雄也　加藤順子　西尾百合子　たんぽぽおさむ　ロベルト宙太　のずまさえ　歳岡せりの　木の実葉　東孝之　◎昨年9月の三軒茶屋スパーク1演劇祭で優秀作品賞を受賞した東京惑ワズの新作は日常を平静に装って生きてる人間の心の影、人生の嘆きやボヤキなどを甘くせつなくコミカル描いた物語。

## 神楽坂 die pratze

〒162-0812　新宿区西五軒町2-12　T&F 03-3235-7990

**6/3(金)〜6/5(日)■NILプロデュース**
『ヴァニティーズ』　問=03-3709-0409　☆作=ジャック・ハイフナー　☆演出=河田園子　☆出演=大坂史子(昴)　島美布由(俳優座)　入江純(演劇集団　円)◎同じハイスクールで学んだ仲良しトリオの10年間に及ぶ交流を描いた3人芝居。彼女達それぞれの見栄、空虚、はかなさを痛切に映し出した問題作!

**6/10(金)〜6/12(日)■Baby Einstein**
『新世界』　問=090-6042-3378　☆作=松田竜一　☆演出=角田翔子　◎「白と黒の二つの世界に別れ、色の失った世界。この世界に色は咲くのか・・・。」日芸生率いる劇団が遂に旗揚げ!!映像・照明・音響全てスタイリッシュ!!新感覚演出!!

**6/17(金)〜6/19(日)■チロリアンハウス**
『YUBIKIRI』　問=tirolianhouse@hotmail.com　☆作・演出=さご　☆出演=金子真紀　くららん　さご　水島友子　他
◎チロリアンハウスが贈る家族の絆第二弾。夫の帰りを待ち、廃業間近の銭湯を一人で抱える友江。妻、子供そして全ての約束を果たした時家族は一つになった。

**6/26(日)〜6/27(月)■らてんのひびき**
『響躰詩一鏡にひびく詩のからだ−』　問=03-3485-8061
☆音楽・美術・演出=J・A・シーザー　☆出演=響巳夏　☆照明=アイカワマサアキ

**7/1(金)〜7/3(日)■グリッドロックペペロンチーノ**
『ディテクティブJam無添加』　問=03-3337-2186　☆作・演出=又吉秀一　酒井謙輔　ながたしゅん　山本昌江　又吉秀一　他　◎今日の主役は明日の脇役かもしれない。あやふやな世界のあやふやな無添加達が織りなすシュチュエーションコメディー!!

## 麻布 die pratze

〒106-0044　港区東麻布1-26-6-2F　T&F 03-5545-1385

**6/4(土)&6/5(日)■赤色彗星館**
『赤色彗星館第七回舞踏公演「錬金術」』　問=090-8516-6005　☆作・演出=点滅　☆出演=点滅　泰造　八田絵理奈　野村朋香　神宮寺信代　山谷仁美　◎'96年結成、舞踏表現を通し自らの世界観を体現してきた赤色彗星館。今回は卑金属を黄金へ変える「錬金術」をテーマに、その実験を出演者の肉体を使って再現した。

**6/10(金)〜6/12(日)■PRODUSE '01**
『東京望郷少年(トーキョーホームシックボーイ)』　問=090-8513-8942　☆作・演出=八尾美和　☆出演=布施雅英　渡辺勝　中田寿輝　他　◎上京して1年半、平凡ながら楽しい大学生活を送っていたヨウタ。しかし生まれ故郷では、村の存亡を賭けた闘いが計画されていた。

**6/16(木)〜6/20(月)■空中バレエ**
『soleil』　問=080-3415-3122　☆作・演出=坂享宣
☆出演=富田千尋　新井菜穂　古谷吉功　後藤凪(劇団若草)
須永祥之(アミューズ)　他　◎「soleil」。この店の品物はすべて手作り。どれも既製品と違って味のある商品ばかり。ただ、ぼくは今、その優しさのつまった店を手放そうとしている。

**6/23(木)〜6/26(日)■シャフト**
『夕焼けのカナタ*アカツキの手前』　問=090-6014-6677
☆作=神崎誠人　☆演出=赤羽律　☆出演=川瀬祐子　梶田夕貴　石井保　音十三　えんどうたいと　石鍋将

**7/1(金)〜7/3(日)■Produce Unit "Gala"**
『A Tale in the Deep Forest』　問=090-9804-4468
☆作=浅沼絵理子　☆演出=渡辺文絵　☆音楽=小山ツトム
☆出演=木澤智之　田口慶子　Codama　つさかたくじ　太田智子　奈瀬葉成美　宮寺哲彦　他　◎それは、真夏の夜、深い森の中で一人の男が出会った不思議な物語。ダンスと音楽のコラボにより、「Gala」が豊かな詩情で描く、大人のためのファンタジー。

**7/4(月)&7/5(火)■竜星群**
『第一回　裏竜星群』　問=03-3439-7960　☆作・演出=伊藤達彦　出演=斉藤賢次　植木祥平　轟ジョニー亀山　他
◎竜星群初のサブ公演。本公演では見れない竜星群を味わえます。

**折り込みチラシ募集**

チラシをCUT INに折り込みませんか。タイニイ・アリス、ディープラッツで配るCUTINに、チラシを折り込む業務を始めました。一月に5000枚、値段は格安でお引き受けします。CUTIN編集部までご連絡ください。
03−5366−8646(井上)　jiro-i@za2.so-net.ne.jp